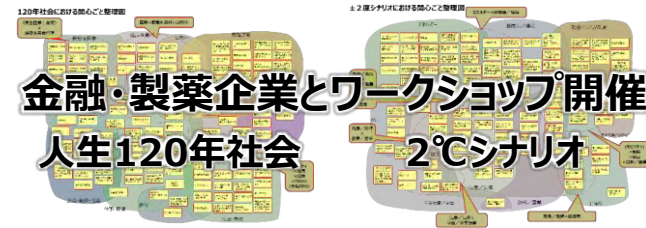
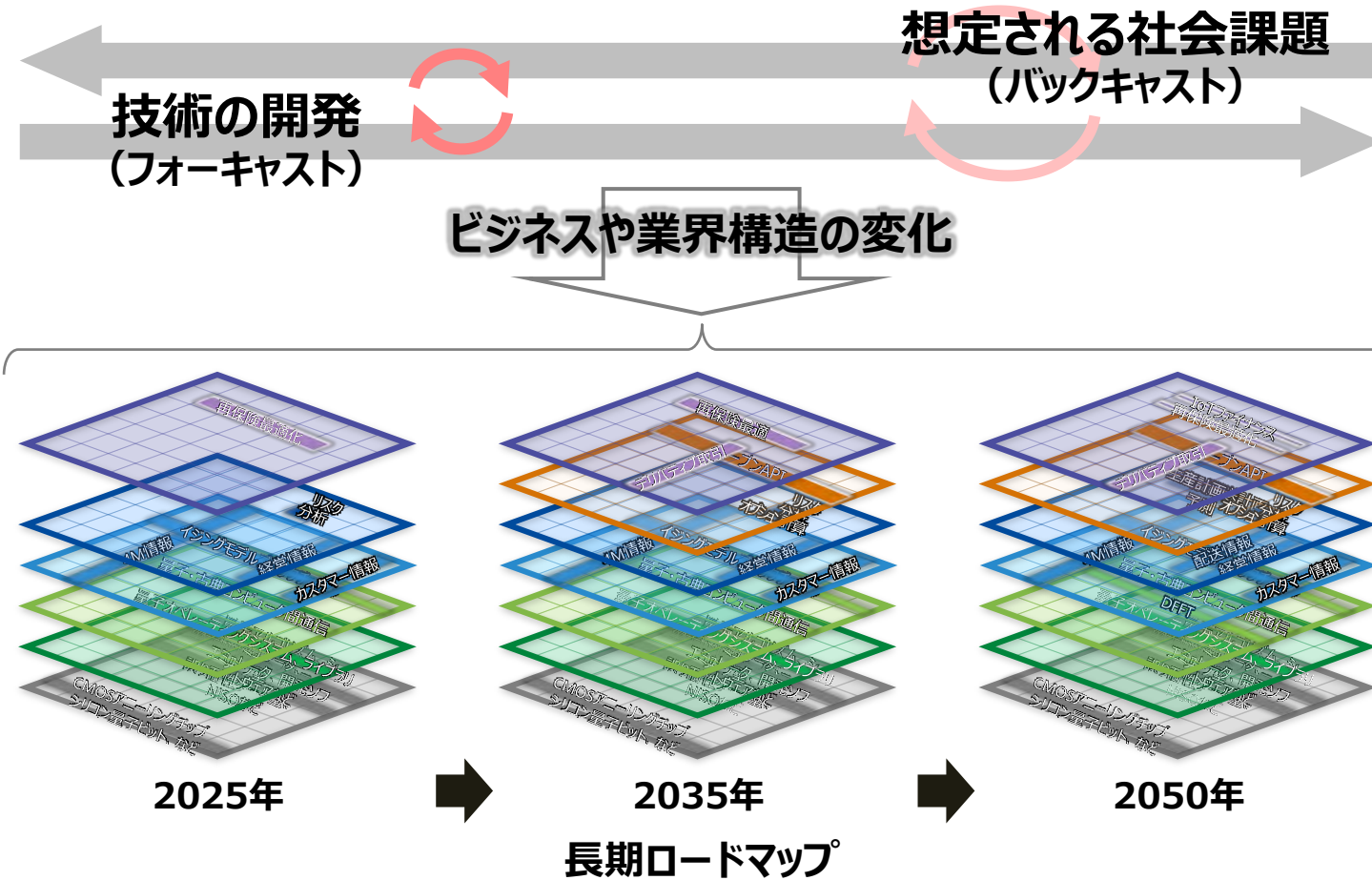


Q-STAR (量子波動・量子確率論応用部会) でのアプローチ

現在の社会・産業



2030年の社会のあるべき姿 (Society5.0)



内閣府 Society 5.0 HPより
(https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

■ 協調領域（非競争領域）での期待

- ① **量子ハード・ソフト開発**（研究→試作→製品化・量産にシームレスに繋がる仕組みの構築）
 - A) 実験・評価環境（テストベッド、設計・シミュレーション環境）
 - B) 周辺ハード・サプライチェーン、半導体試作ラインの整備
 - C) ベンチマーキング手法の整備・標準化

- ② **アプリケーション開発**（ユースケースの発掘）
 - A) 日本がフォーカスすべき領域の選定
（日本の課題先進性・高齢化など、Society5.0の具体化）
 - B) 実験・評価環境（効果検証・特区、社会シミュレーション）

- ③ **人材確保**
 - A) 人材DBの構築・共有
 - B) 流動性確保（企業・アカデミア、国内外、ジョブ型雇用の活用）
 - C) アウトリーチ活動

Hitachi Social Innovation is

POWERING GOOD

世界を輝かせよう。